

株式会社ツムラ 2017年度 決算説明会

(2017年4月1日～2018年3月31日)

2018年5月11日(金)

代表取締役社長 加藤 照和

長期経営ビジョン実現へのロードマップ



戦略課題

1. 漢方市場の拡大と安定成長
2. 収益力の継続強化とキャッシュ・フローの最大化
3. 中国における新規ビジネスへの挑戦

2017年度 決算

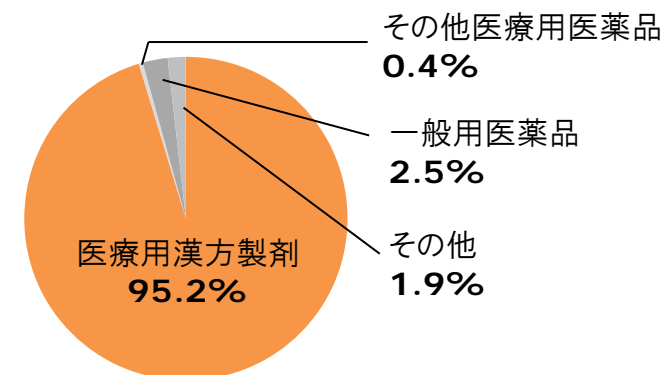
2017年度 決算の概要

(百万円)

	2017年度 計画	2017年度 実績	達成率	2016年度 実績	前期比	
					金額	伸長率
売上高	120,700	117,879	97.7%	114,954	2,924	2.5%
営業利益 (営業利益率)	17,600 (14.6%)	17,050 (14.5%)	96.9%	15,983 (13.9%)	1,067	6.7%
経常利益	18,100	17,914	99.0%	16,399	1,515	9.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	12,700	14,504	114.2%	12,488	2,015	16.1%

	2017年度 計画	2017年度 実績	2016年度 実績
EPS	175円	200円	179円
ROE	7.4%	8.3%	8.1%

売上高構成比



決算のポイント

- 売上高未達のため、営業利益・経常利益ともに計画未達
- 前期比では、増収増益を確保

連結売上高	117,879 百万円	計画達成率	97.7%	前期比	2.5%
-------	--------------------	-------	--------------	-----	-------------

- 医療用漢方製剤の販売が前期比2.4%伸長したこと等により、前期比29.2億(2.5%)増収。計画達成率は97.7%

営業利益	17,050 百万円	計画達成率	96.9%	前期比	6.7%
------	-------------------	-------	--------------	-----	-------------

営業利益率	14.5 %			前期比	0.6pt
-------	---------------	--	--	-----	--------------

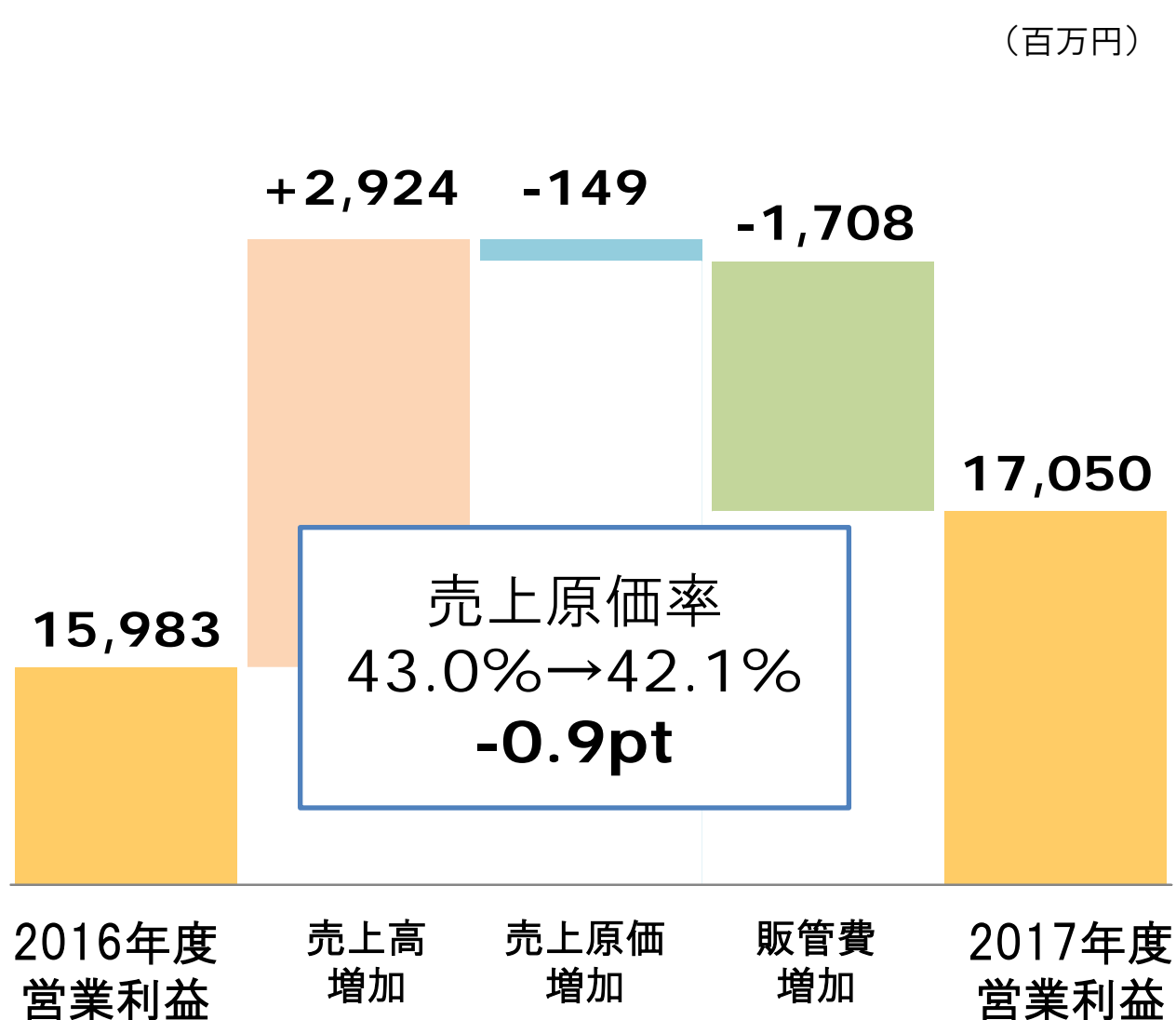
- 売上原価率は、生薬関連コストの減少等により、前期比0.9ポイント低下の42.1%
計画に対しては、生産性向上による加工費の改善等により、0.3ポイント下回った
- 販管費率は適正な管理を行ったが、売上未達の為、前期比0.4ポイント上昇の43.5%(計画比+0.5ポイント)

経常利益	17,914 百万円	計画達成率	99.0%	前期比	9.2%
------	-------------------	-------	--------------	-----	-------------

親会社株主に帰属する 当期純利益	14,504 百万円	計画達成率	114.2%	前期比	16.1%
---------------------	-------------------	-------	---------------	-----	--------------

- 投資有価証券売却益14.9億円を特別利益に計上

営業利益の増減要因



売上高増減内訳

項目	増減額 (百万円)
医療用漢方製剤129処方	+2,626
その他	+298

売上原価率増減内訳

項目	増減率 (pt)
生薬関連コスト	-0.5pt
加工費の改善	-0.2pt
為替の影響	-0.1pt
その他	-0.1pt

販管費増減内訳

項目	増減額 (百万円)
販促費、感謝金	+433
研究開発費	-38
広告宣伝費	+160
人件費	+505
その他	+647

財務状態

バランスシート

(百万円)

	2017年 3月末	2018年 3月末	増減額
資産合計	222,008	293,701	71,692
流動資産	134,679	192,401	57,722
固定資産	87,329	101,300	13,970
負債合計	64,611	97,168	32,556
流動負債	31,883	48,766	16,882
固定負債	32,727	48,402	15,674
純資産合計	157,397	196,533	39,135

自己資本比率	69.7%	65.9%	-3.8pt
--------	-------	--------------	--------

(百万円)

B/S	2017年 3月末	2018年 3月末	比較増減
たな卸資産	52,138	49,994	-2,144
(商品及び製品)	8,122	8,008	-114
(仕掛品)	14,547	12,797	-1,750
(原材料及び貯蔵品)	29,467	29,188	-279

(百万円)

	2017年 3月末	2018年 3月末	増減額
資本金	19,487	30,142	10,654
資本剰余金	1,940	14,027	12,087
利益剰余金	129,937	140,040	10,102
自己株式	-5,393	-814	4,579
株主資本合計	145,972	183,396	37,423

自己株式	1,989千株	300千株	-1,689千株
------	---------	--------------	----------

資本金、資本剰余金の増加

- ・平安保険*との資本業務提携

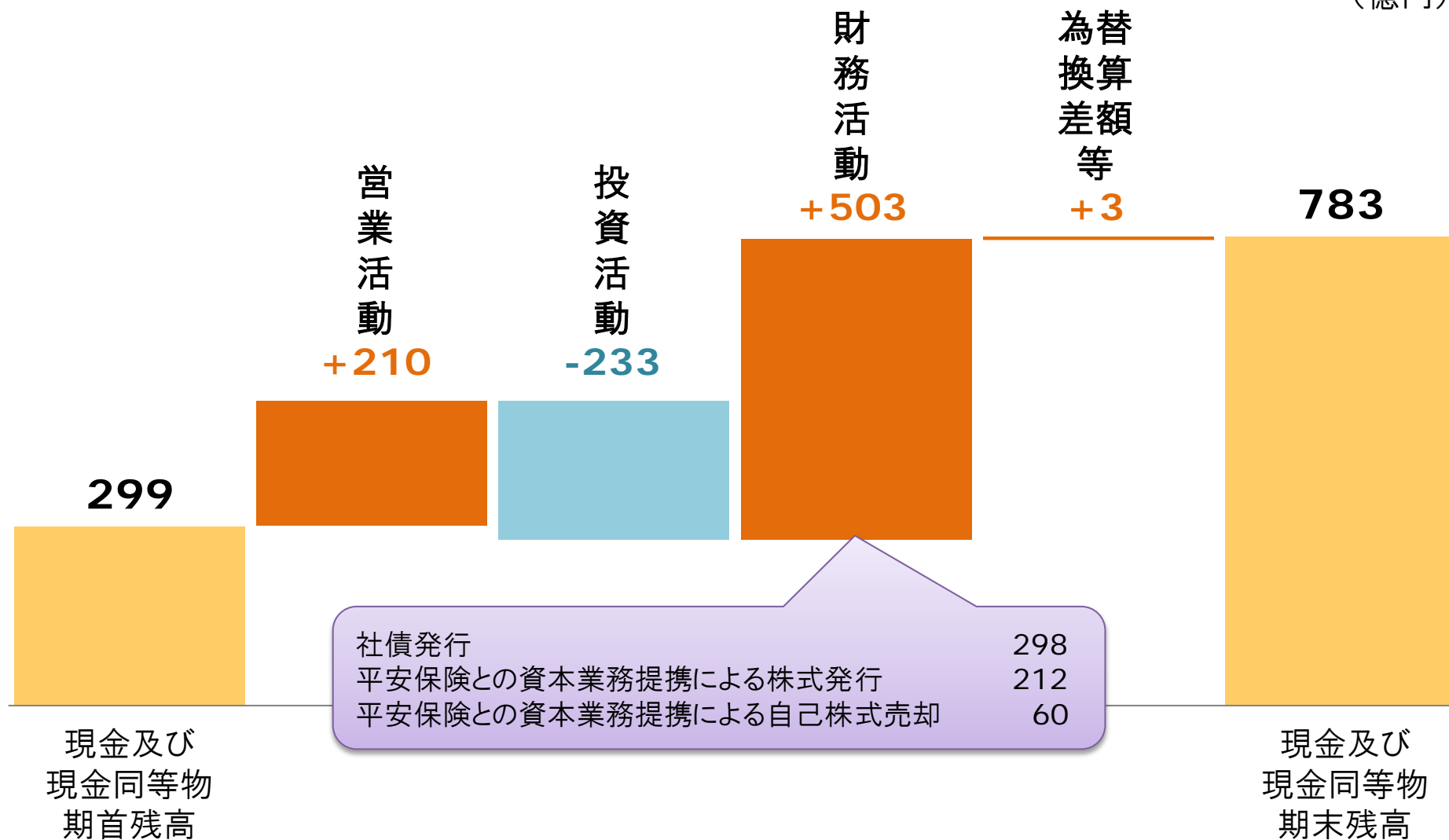
自己株式の減少

- ・平安保険との資本業務提携

*平安保険(集団)股份有限公司

キャッシュ・フローの状況

(億円)



戦略課題への取り組み・進捗状況

- 1. 漢方市場の拡大と安定成長**
- 2. 収益力の継続強化とキャッシュ・フローの最大化**
- 3. 中国における新規ビジネスへの挑戦**

1. 漢方市場の拡大と安定成長

医療用漢方製剤(戦略処方)売上高

(百万円)

	売上順位	製品No./処方名		2016年度	2017年度	前期比	
育薬処方	1	100	大建中湯	10,328	10,584	256	2.5%
	2	54	抑肝散	7,330	7,571	240	3.3%
	4	43	六君子湯	6,863	7,044	181	2.6%
	9	107	牛車腎気丸	3,733	3,686	- 47	- 1.3%
	21	14	半夏瀉心湯	1,276	1,334	58	4.6%
育薬処方合計				29,532	30,221	689	2.3%
Growing処方	3	41	補中益気湯	6,947	7,098	151	2.2%
	5	68	芍薬甘草湯	4,853	5,031	177	3.7%
	7	29	麦門冬湯	4,511	4,511	- 0	- 0.0%
	6	24	加味逍遙散	4,465	4,534	68	1.5%
	8	17	五苓散	3,363	3,722	358	10.7%
Growing処方合計				24,141	24,898	756	3.1%
医療用漢方製剤129処方合計				109,647	112,274	2,626	2.4%

医療用漢方製剤129処方伸長率

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
金額ベース	10.6%	3.2%	2.4%	2.3%	1.9%	2.4%
金額伸長処方数	125	66	81	68	95	63
薬価改定率	-3.8%	—	-3%	—	-3%	—

1. 漢方市場の拡大と安定成長

重点領域（高齢者・がん・女性）育薬3品目 売上結果

2021年度売上高100億超え処方を3処方に
（大建中湯・抑肝散・六君子湯）



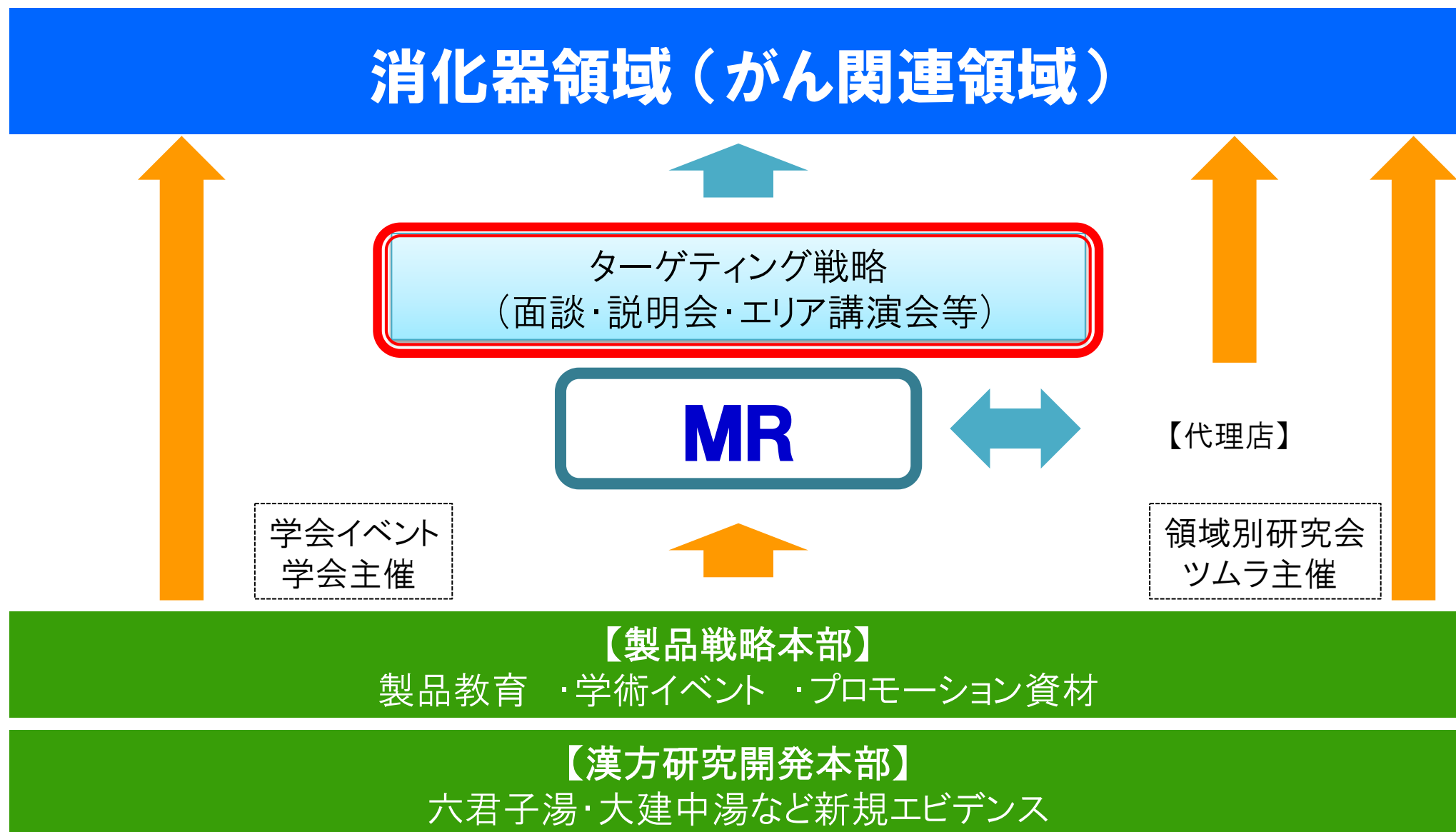
要強化(課題)処方



特に「六君子湯」の強化が必須

1. 漢方市場の拡大と安定成長

2017年度 営業施策（消化器領域の集中化・重点化）



1. 漢方市場の拡大と安定成長

2017年度 売上未達の主要因（六君子湯）

2017年度下期	ターゲット施設軒数構成比	市場規模
HP	56%	約25%
GP	44%	約75%

市場規模が約25%であるHPへの活動が中心となり、規模の大きいGPへの活動が弱まり、売上に影響が生じた

HP:100床以上の病院(勤務医・研修医)

GP:100床未満の病院(勤務医)、診療所(開業医)

1. 漢方市場の拡大と安定成長

2018年度 六君子湯ターゲット施設への取り組み

ターゲットを増やし、GPへの活動をさらに強化

2017年度下期ターゲット施設

	施設軒数	施設軒数 構成比
HP	429	56%
GP	341	44%



2018年度上期ターゲット施設(4月現在)

	施設軒数	施設軒数 構成比
HP	607	22%
GP	2,213	78%

2018年度 六君子湯「消化器領域戦略」

ターゲット疾患を明確化し、徹底実施

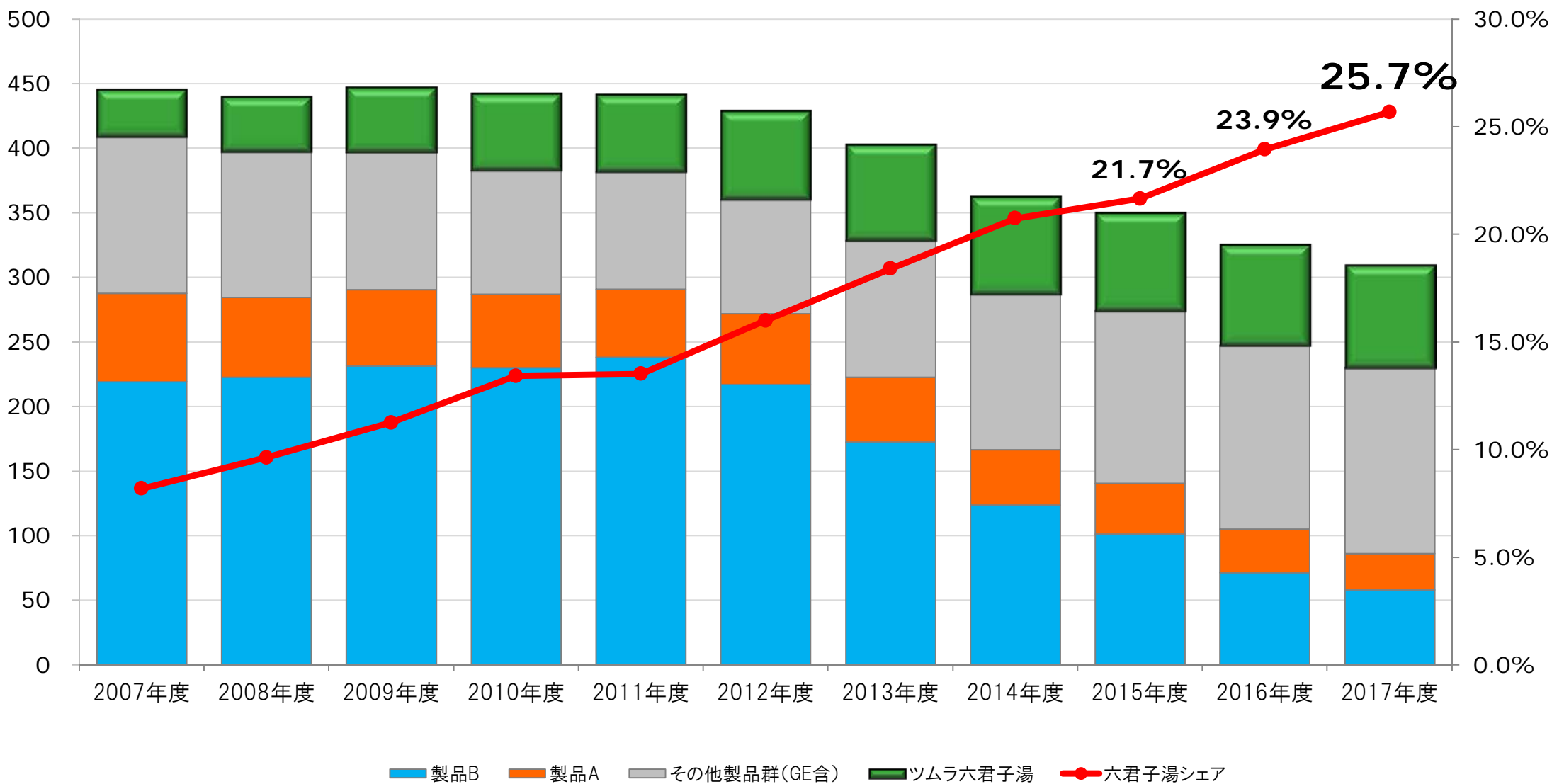
HP: ・がん支持療法
 ・消化器癌術後のクリニカルパス導入

GP: 上部消化器疾患(機能性ディスペプシアなど)におけるファーストライン確立

1. 漢方市場の拡大と安定成長

胃腸運動促進剤市場『金額』規模推移

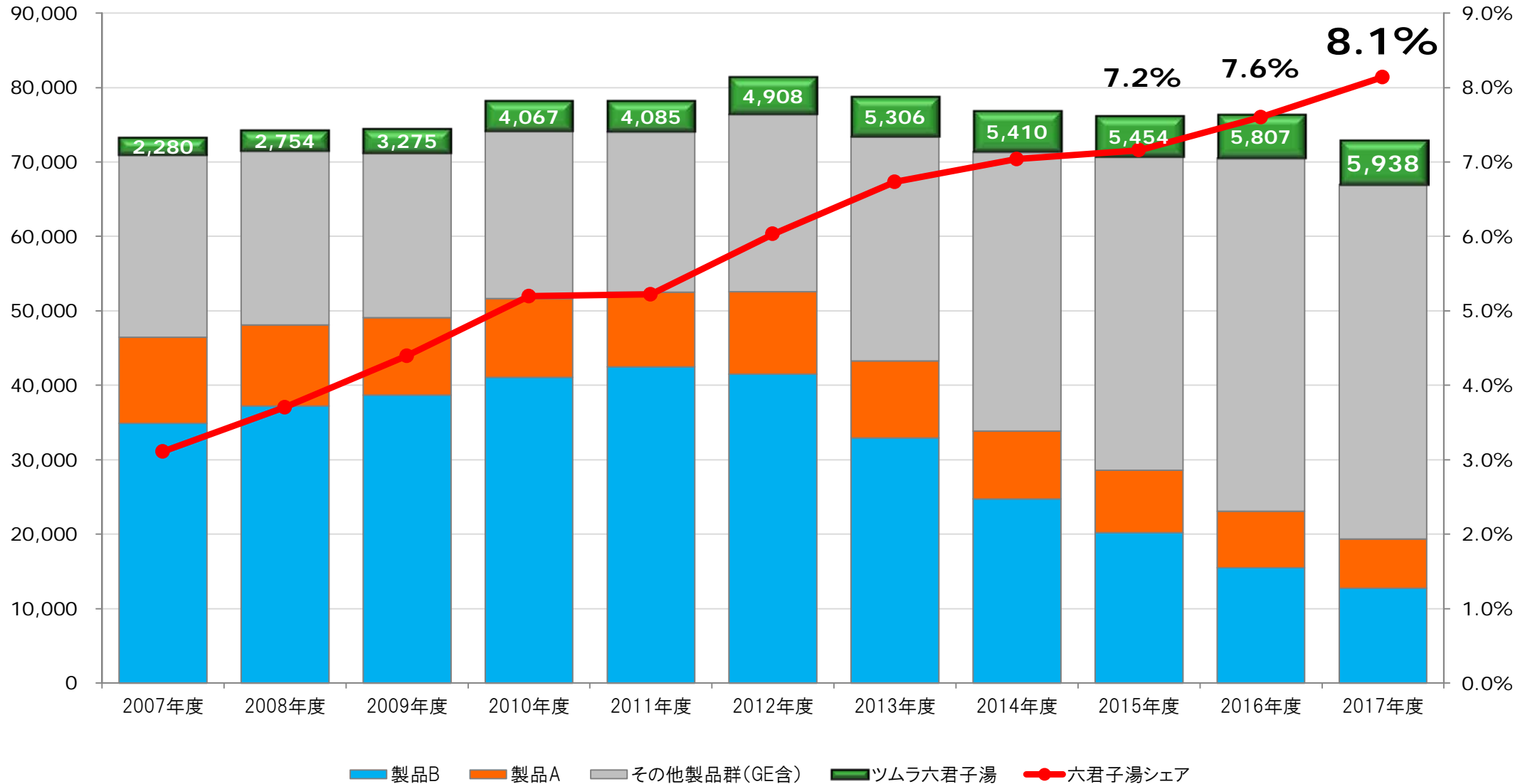
億円(薬価)



1. 漢方市場の拡大と安定成長

胃腸運動促進剤市場『数量』規模推移

患者人日(万人日)



1. 漢方市場の拡大と安定成長

2018年度 営業施策

① 消化器領域戦略

胃腸運動促進剤市場における「六君子湯」シェア拡大

- 現状において他社の新規開発がない市場である
- 漢方の強みが活きる(例:精神不安を起因とする場合に有効な処方がある)
- 六君子湯以外にも、消化器系疾患に対応できる処方が多数

市場シェア(数量ベース)

8%

(2017年度)



11%

(2021年度)

DREAM Study

機能性ディスぺプシア患者に対する六君子湯の有効性および
安全性に関する多施設二重盲検比較試験

出典:Tominaga, K. et al. Neurogastroenterol Motil. 2018, DOI: 10.1111/nmo. 13319.

1. 漢方市場の拡大と安定成長

DREAM Study の試験結果概要

1. 患者様の治療満足度が有意に改善

主要評価項目(OTE *: 胃の調子)の結果

2. 食後もたれ感/早期飽満感、膨満感が有意に改善

副次評価項目(PAGI-SYM)の結果

【参考】上腹部症状と精神神経症状の変化に相関性あり

精神神経症状は、HAD(不安抑うつスコア)で検討

*OTE: 治療効果についての全体的な印象

出典: Tominaga, K. et al. Neurogastroenterol Motil. 2018, DOI: 10.1111/nmo. 13319.

1. 漢方市場の拡大と安定成長

2018年度 営業施策

六君子湯の市場拡大のための具体策

上部消化器疾患におけるプライマリー領域

多成分系であり、複数の薬理作用を持ち、様々な症状を改善するため、
治療を開始する場合のファーストラインとして活用が期待される

がん支持療法

グレリンエンハンサーである六君子湯の周術期における介入で食欲が改善され、体力が増強し、術後合併症の予防や抗がん剤治療の完遂に貢献できる可能性が大きい

DREAM Study 試験の良好な結果を資材化(5月末)し、MR活動をバックアップ

1. 漢方市場の拡大と安定成長

2017年度 伸長処方(仕組み)

五苓散

売上高 **3,722**百万円 前期比 **10.7%**増

GPでは嘔気・下痢などのプライマリー疾患に使用され、HPでは主に医師間の情報交換によるプラス効果もあり、堅調に伸長した

人参養栄湯

売上高 **913**百万円 前期比 **30.2%**増

後述の「漢方処方BPSDネットワーク戦略」を1月より先行して実施したことも奏功し、大きく伸長した

治療満足度や薬剤貢献度の低い領域での伸長が期待できる

1. 漢方市場の拡大と安定成長

2018年度 営業施策

② 漢方処方BPSDネットワーク戦略



加味帰脾湯

抑肝散

各処方を連動

人參養栄湯

抑肝散加陳皮半夏

認知症の「ステージ毎に適切な処方」を選択していく

BPSD：認知症の行動・心理症状

1. 漢方市場の拡大と安定成長

2018年度 営業施策

③ その他の戦略

地域包括ケアシステムに対する取り組み

- 地域包括ケアシステムのキーとなる医師等への漢方啓発活動

総合診療医セミナー『漢方ベースキャンプ』

総合診療専門医、指導医等への漢方医学セミナーを実施し、地域包括ケア推進の担い手としての総合診療医への漢方普及に貢献する

地域医療サポート研修会

様々な高齢者疾患に対し漢方を提案することで、地域の課題を解決し、住み慣れた地域で自分らしく暮らしていける環境づくりへ貢献する

⇒4年間で全47都道府県で研修会を企画・実行する

1. 漢方市場の拡大と安定成長

2018年度 営業施策

総合診療医セミナー『漢方ベースキャンプ』

プライマリケアに役立つ漢方実践レクチャー

第1回 緩和ケア領域の漢方薬を覚えよう

～半夏瀉心湯、補中益気湯、六君子湯など～

第2回 消化器領域の漢方薬を覚えよう

～五苓散、六君子湯、大建中湯など～

第3回 精神症状に使える漢方薬を覚えよう

～柴胡加竜骨牡蛎湯、抑肝散、人参養栄湯など～

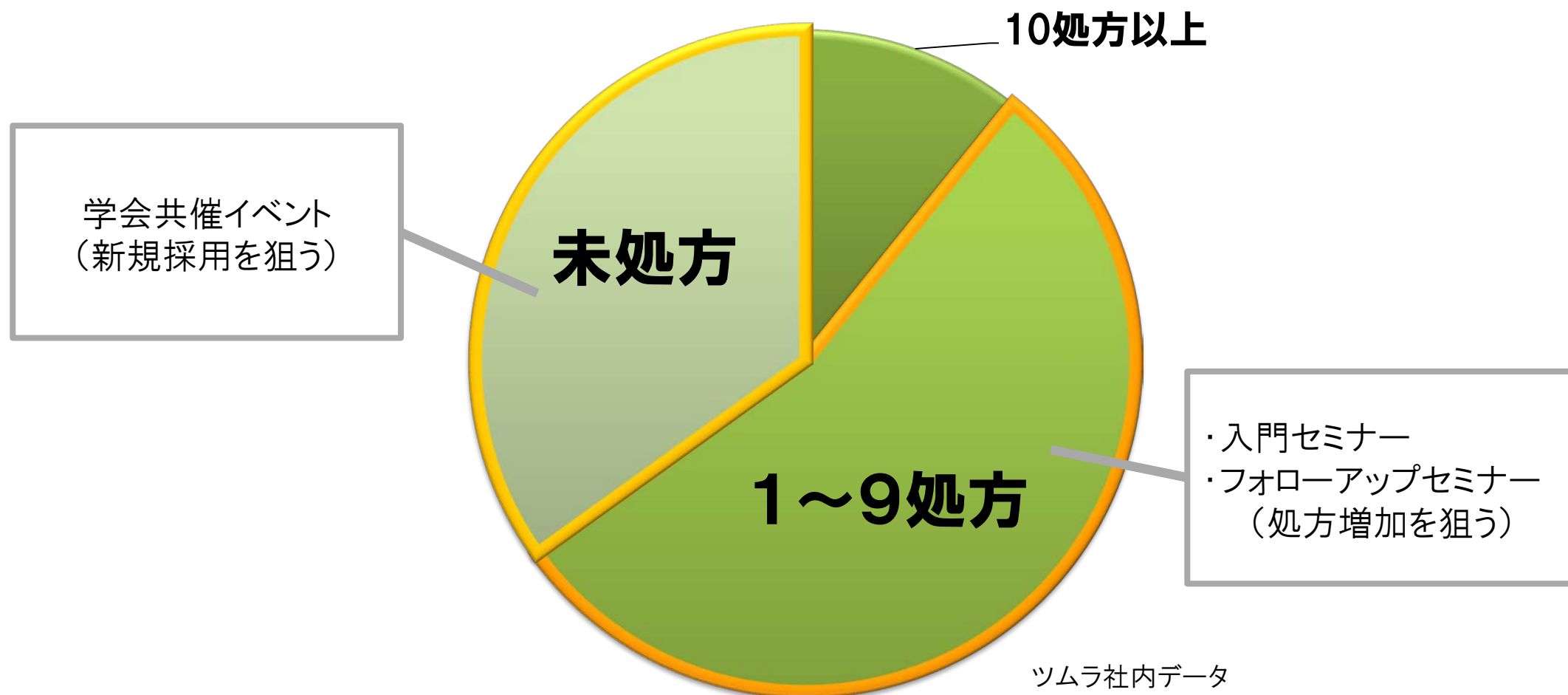
第4回 漢方医学的診察方法を覚えよう

～腹診、舌診、問診など～

全国を8ブロックに分け、展開していく

1. 漢方市場の拡大と安定成長

漢方を処方する医師の割合



処方頻度向上の余地に加え、潜在的な市場性も高く、
漢方には今後も十分な成長性がある

1. 漢方市場の拡大と安定成長

一般用漢方製剤『ツムラ漢方シリーズ』のリニューアル（2018年3月）



Concept

ツムラ漢方を正しく「伝える」「伝わる」

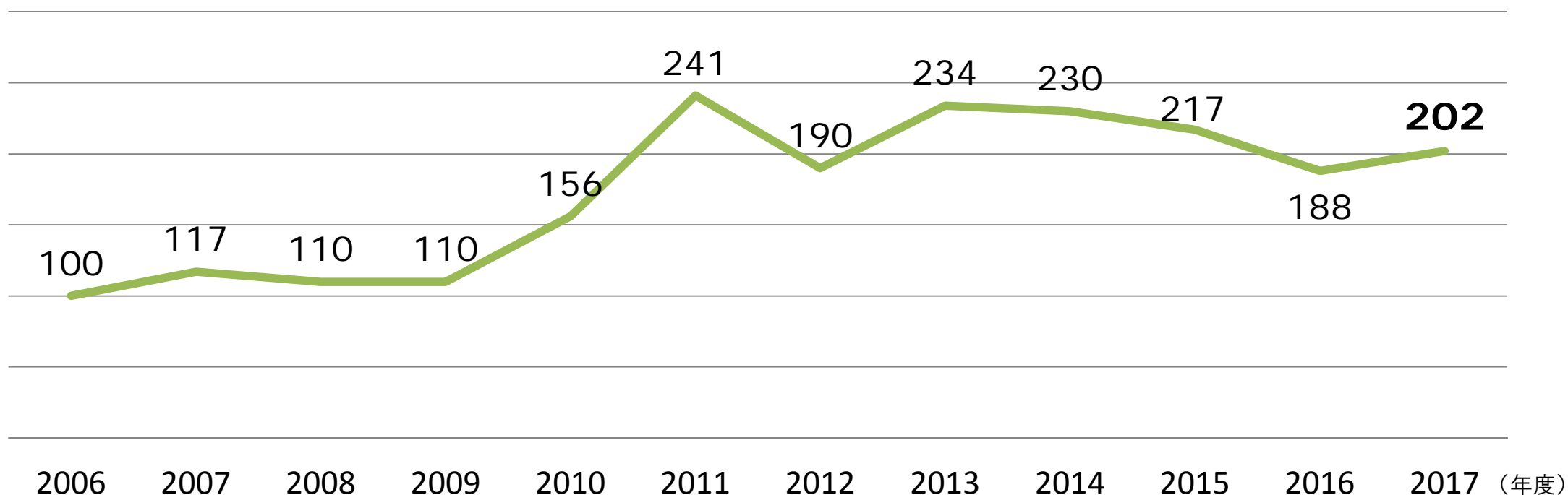
2. 収益力の継続強化とキャッシュ・フローの最大化

原料生薬価格の動向

中国産全生薬の購入価格

(産地会社→関連会社 実績と見込)加重平均値

2006年度を100とした場合



2016年度からの購入価格について
 これまでの「調達手配量ベース」ではなく
 「使用量ベース」に換算して算出

2011年度
 ①中国国内での生薬需要増
 ②天候不順
 ③投機的買占め

2013年度
 人参価格高騰など

2015年度
 人参単価の下落
 ①投機目的の購買解消方向
 ②市場への供給量増加

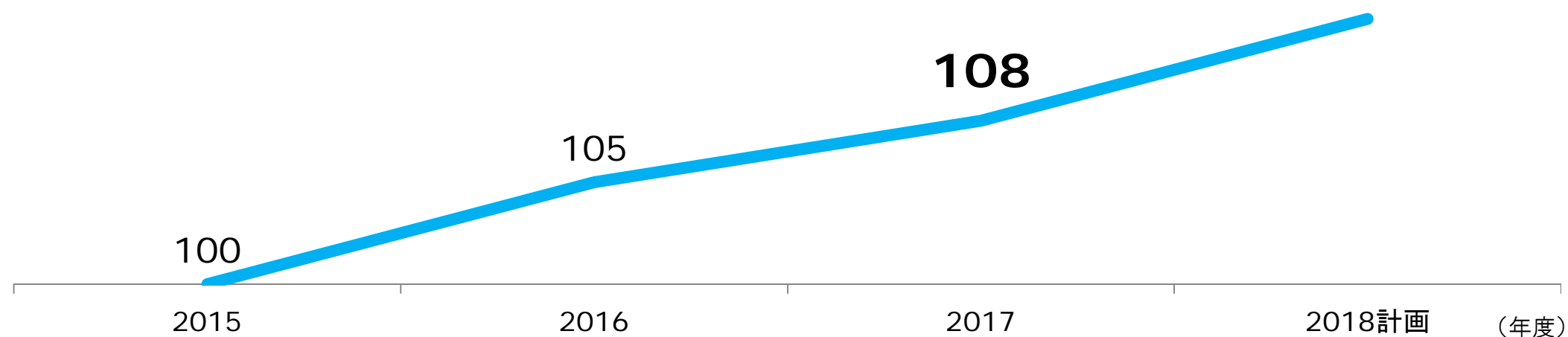
2. 収益力の継続強化とキャッシュ・フローの最大化

労働生産性の向上

労働生産性向上効果

2021年度は、2015年度比30%増を目指して取り組んでいます

(%)

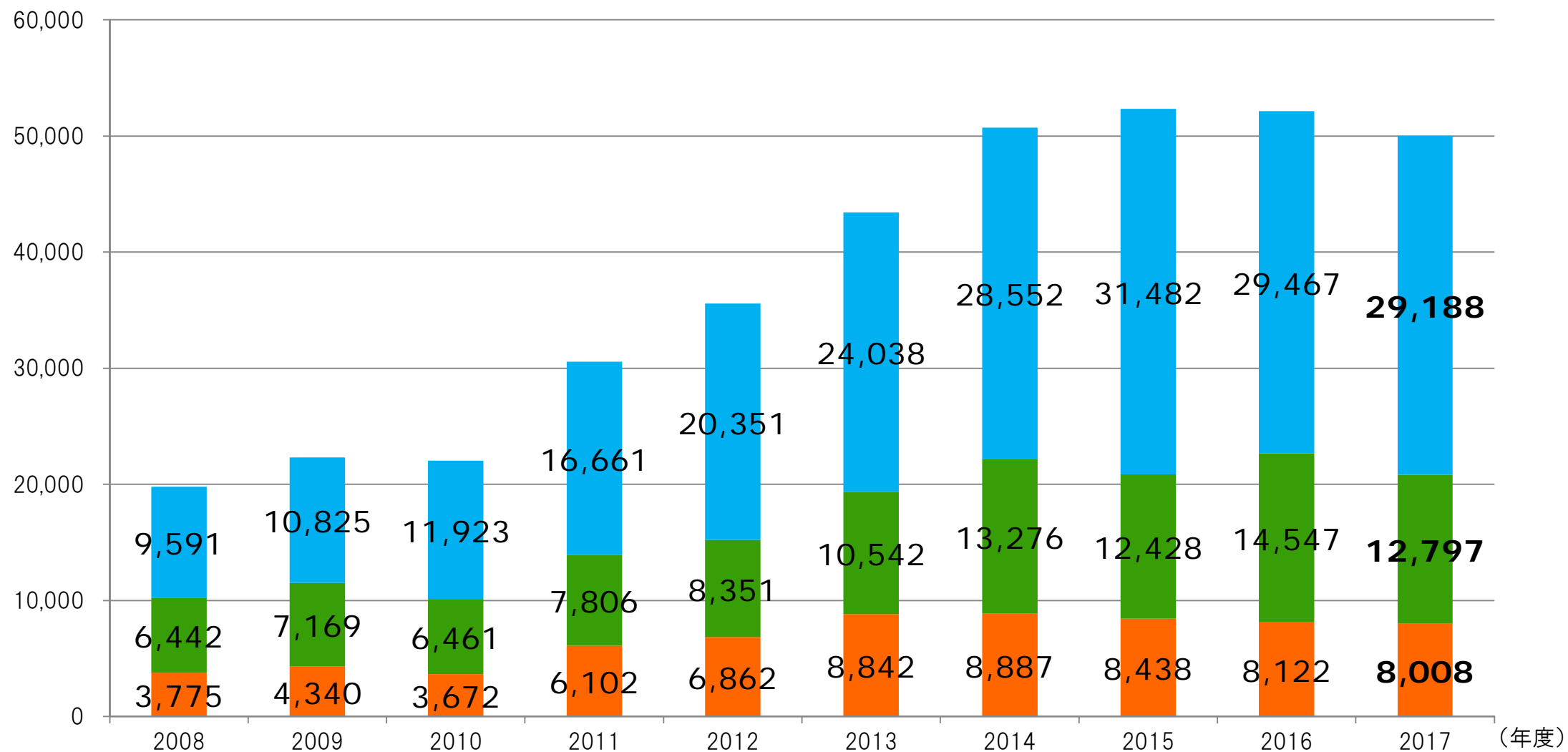


2. 収益力の継続強化とキャッシュ・フローの最大化

棚卸資産の推移

(百万円)

■ 商品及び製品 ■ 仕掛品 ■ 原材料及び貯蔵品



3. 中国における新規ビジネスへの挑戦

中国事業の進捗状況

会社名	所在地	進捗状況
津村(中国)	上海	中国におけるグループによる投資事業の再編
津村盛実	天津	工場用地の取得、建設準備
上海上薬津村	上海	<ul style="list-style-type: none"> ・中薬配合顆粒の製造設計 ・工場用地の取得、建設準備
平安津村	深圳	<ul style="list-style-type: none"> ・会社設立手続き ・分析研究センターの建設準備 ・生薬調達体制の強化に向けた活動
上海津村	上海	エキス顆粒の製造可能な小規模プラントの建設
深圳津村	深圳	飲片(刻み生薬)の製造販売



深圳津村の飲片

米国開発状況

TU-100 (大建中湯) 米国開発の総括

IBS・POI・クローン病の3領域で、TU-100の臨床試験を実施

		2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
品質管理		FDAミーティングを経て、バイオアッセイ(生物検定法)による品質評価方法を合意				<ul style="list-style-type: none"> 品質管理体制の合意 生薬品質データベースの構築 農薬、重金属、微生物、アフラトキシン等の管理 	
有効性・安全性	IBS	エンドポイント探索試験(IBS患者) P II 前期					
	POI	エンドポイント探索試験 (腹腔鏡下大腸切除手術患者) P II 前期					
	クローン病	レスポンドー試験 (クローン病患者)P II 前期					
	安全性等	副作用*1	ADME*2				

*1: FDAに副作用発現頻度調査結果を提出

*2: FDAに米国人健常人を対象とした臨床薬物動態結果を提出

IBS: 過敏性腸症候群、POI: 術後イレウス(術後腸管機能障害)

ADME: 吸収、分布、代謝、排泄

TU-100 米国開発の総括

Step1

- 得られた結果の総合的評価
(再現性、指標の感度、患者登録難易度)
- 上市後のニーズ(開発パイプライン、画期的新薬の登場)

Step2

国内外の試験データの詳細解析
日本・米国のオーソリティ医師による意見
コンサルタント(元FDA審査官)による意見
外部調査会社によるニーズ調査

- 術後イレウスの治療は現在において重大なUnmet Medical Needsである
- 米国医療の特殊性から入院期間短縮、合併症の軽減ニーズが高い
- TU-100は術後イレウスに対する治療薬として十分有望である

TU-100 米国開発の今後の方針

開発ターゲット疾患
「術後イレウス（POI）」



日本の専門医および統計解析の専門家によるアドバイザー・チーム
⇒ 共同で戦略と試験の立案

アメリカの専門医によるアドバイザー・チーム

TU-100 米国開発によって得られた成果

- 薬物動態(PK)試験
- 副作用発現頻度調査
- 腸内細菌研究
- 新しい品質管理方法への挑戦

米国開発成果を国内展開

DKTフォーラム実施(EBMの集積)

品質管理方法の改善

PK試験/副作用発現頻度調査の横展開

国内市場の活性化

PIC/S対応等のCMCの世界標準化

添付文書の改訂

『漢方の将来ビジョン研究会』の提言とも合致

PK:薬物動態学

PIC/S:医薬品査察協定及び医薬品査察共同スキーム

CMC:化学、製造、管理

ESG活動のトピックス

コーポレート・ガバナンス体制の変遷

年度	対応	概要
2015	社外取締役増員(3名) 社外取締役会議設置 役付執行役員導入	社外取締役の増員等による取締役会の監督機能強化と執行役員を業務執行の最終責任者と明確化することで、迅速な意思決定と効率的な業務執行が可能となった
2016	業績連動型株式報酬制度導入	執行役員兼務の取締役と執行役員の報酬を会社業績および当社の株式価値により明確に連動する制度を導入
2017	監査等委員会設置会社移行 指名・報酬諮問委員会設置	取締役会の監督機能を強化し、経営の健全性と透明性をより一層向上させる「監査等委員会設置会社」へ移行(取締役会の過半数が社外取締役となる体制)

取締役会の実効性向上に向けた取り組み

- 2015年12月にCGC開示後、2016年度から自社で取締役会実効性評価を実施 -

経営の健全性・透明性
取締役会の監督機能強化

2017年度
機関設計の変更

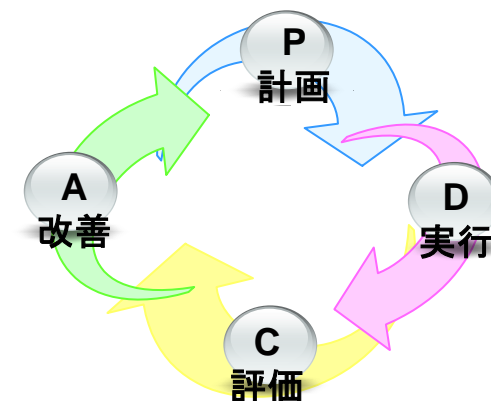
監査等委員会設置会社へ移行

指名・報酬諮問委員会設置

取締役会規則の改正

2018年度
各課題への取り組み

取締役会実効性評価
課題解決PDCAサイクル構築



企業版ふるさと納税(夕張市)

2017年から3年間で総額3億円の寄付



2018年4月28日 鈴木市長と夕張市役所にて

2017年度実績

- 地域再生計画
「夕張の未来をつくるプロジェクト」
 - ①認定こども園整備事業
 - ②保育料無償化の拡大
 - ③子ども医療費無料化の拡大
 - ④地域人材育成事業
 - ⑤創業支援及び資格取得支援事業
- 地域再生計画
「攻めの農林業！～夕張百年の計～」
 - ①夕張メロン生産基盤対策事業
 - ②地域産業資源創出事業(薬木植栽事業)

2018年度 業績予想

2018年度 業績予想

(百万円)

	2017年度	2018年度 予想	前期比	
			金額	伸長率
売上高	117,879	120,500	2,620	2.2%
営業利益 (営業利益率)	17,050 (14.5%)	17,500 (14.5%)	449	2.6%
経常利益	17,914	18,000	85	0.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	14,504	12,800	-1,704	-11.8%

	2017年度	2018年度 予想
配当金(1株当たり)	64円	64円
EPS	200円	167円
ROE	8.3%	6.4%

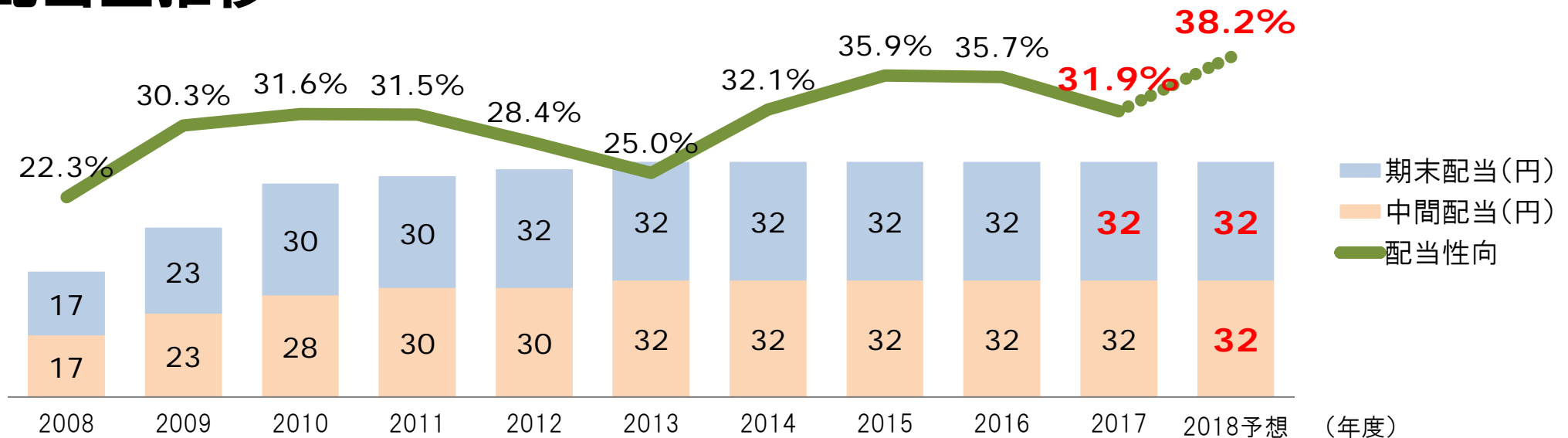
株主還元

株主還元

方針

- “漢方”が持続的に発展・成長するための事業投資を通じて、企業価値の向上を図る
- 中長期の利益水準やキャッシュ・フローの状況等を勘案し、安定配当を実施する
- 市場動向等を総合的に勘案したうえで、最適資本構成の検討・見直しを踏まえた株主還元努める

配当金推移



(注)2017年度の期末配当金および配当性向(予想)は、第82回定時株主総会による配当議案が決議された場合の数値を記載

本資料に関するお問い合わせ先

株式会社ツムラ

コーポレート・コミュニケーション室

広報グループ

TEL:03-6361-7100

IR推進グループ

TEL:03-6361-7101

見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。従って、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。
- 日本ならびにその他各国政府による医療保険制度や薬価等の医療行政に関する規制が変更された場合や、金利、為替の変動により、業績や財政状態に影響を受ける可能性があります。
- 現在発売している主要製品が、万が一製品の欠陥、予期せぬ副作用などの要因により、販売中止となったり、売上が大幅に減少した場合、業績や財政状態に大きな影響を及ぼします。